

経営目標 教育目標	【学校経営目標】 『知・徳・体』の基礎・基本の定着を図り、『評価と公開』による学校教育に対する信頼性と満足度の向上を図る。 【学校教育目標】 確かな学力と豊かな心をもち、よりよい社会の形成者として未来を切り拓く志と意欲にあふれた生徒の育成	めざす 生徒像	『夢・実現に向けて高い志をもち、絶えず努力し続ける生徒』 ・自ら意欲的に学習に取り組み、自らの未来に夢を抱きながら努力し続ける生徒 ・道徳、特別活動、部活動に主体的に取り組み、マナーとルールを重んじる生徒 ・体を動かすことをいとわない生徒 ・神石高原中学校の生徒として誇りをもつ生徒
--------------	--	------------	---

中期経営 目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目・指標	目標 値	自己評価				改善方策	担当者	学校関係者評価				
						時期	達成 値	評価	達成状況			評価			コメント	
												イ	ロ	ハ		
I 「知」の基礎・基本の充実	1 基礎基本の徹底を図るとともに小中高連携の推進による学力向上を図る。	1	○基礎的・基本的な知識・技能を活用し個人思考や集団思考の際に、積極的に書く活動を取り入れた授業づくりを進める。 ・発問・指示の工夫をする。(教師) ・自分の考えや理由・根拠を書く。(生徒) ・自分の学習状況を的確に把握するための振り返りをする。(生徒)	・自分の考えや授業の反省を書いている生徒を80%以上とする。	80%	中間	75%	B	書く活動に重点をおいて取り組み、各教科で取り組んでいるが、やりきれていない生徒がいる。授業中の時間の確保が十分でないことが原因である。	2学期から「なるほどノート」を全員に持たせ、主体的な学びを促進する。また、「なるほどノート」を記入する時間の確保をする。	江草・佐野	○			どうやったら改善できるかに取り組んで75%を85%に上げることができたのは大きい。こうした取組が大切である。「なるほどノート」の好事例を提示した取組も良い。	
			○家庭学習時間の目標(1年生90分、2・3年生120分)を示す。 ○家庭学習のガイダンスを行い、予習・復習の内容や自学自習ノートの活用について指導する。 ○予習してきた内容が生きる授業展開を行う。	・家庭学習時間が目標(1年生90分、2・3年生120分)以上の生徒を80%以上とする。 ・生徒の授業の満足度を80%以上にする。	80%	中間	61%	C	普段の学習時間が90分以上の生徒は全体で82.9%だが、目標値に達している生徒は1年生84.9%、2年生55.6%、3年生42.9%である。授業での学習内容がわかると肯定的に回答した生徒は99.1%である。	「やったらできた」という成功体験を学習の中でもたせ、個別の目標設定をする。		佐伯・池田・神田	○			寮生による効果が大きいことをもっとアピールしてもよいのではないか。(例えば、寮に入って宿題を確実にやり提出するようになったことや生活が改善したことなど)
			○小中高合同授業研究会を実施する。 ○数学科と英語科において、油木高校との交流授業を実施する。	児童生徒アンケート「中学校(高等学校)の先生との授業で学習への関心が高まった」の肯定的回答率を85%以上とする。	85%	中間	90%	A	5月と8月に小中高合同研修会、8月に小6部活動体験を実施し小中の連携を図った。数学科は中学校で、英語科は高校で、それぞれITで授業を行うことができ、中高的連携ができている。	11月にさらに、小6授業体験を実施し、小中高連携を図る。11月・1月の油木高校授業研修会に参加し連携を図る。			江草・赤木	○		
○生徒会スローガンを掲げ、達成できるような生徒が自主的に動き、生徒自身が創り上げる学校行事になるよう、見直しをもって行事計画や日常的な活動計画を考える。 ○自主的に活動する場面を保証するために、委員会活動を毎週行う。	生徒アンケート「体育大会、文化祭をやりきった。」「生徒会スローガンを達成できた」の肯定的回答率を90%以上とする。	90%	中間	95%	A	文化祭で自主的に動き、スローガンを達成することが「できた」と回答した生徒は、体育大会と同様にほぼ100%であった。前年度を踏襲するだけでなく、新たな工夫を取り入れようとするなどの自主的な動きが様々な場面で見られた。日常の委員会活動を毎週行うことで、事前に考えた活動内容を練り合ってから取り組める時間が確保できている。	文化祭・新生徒会選挙などの行事を計画的に行えた。今後も先の見直しをもって日常の活動にも取り組ませる。3学期から1、2年生主体の生徒会になり、日常活動をやりきらせ、その後、新たな取組を考えさせていくようにする。	松井・唐川	○		企画書の作成のために練り合うのは、大変よい取組で、将来役に立つと思う。生徒の主体性をさらに伸ばし育てるために、さまざまな体験活動も含めて取り組むのもよいことだと思う。					
○「4つの心得(明るく元気、時間を有効に、物を大切に、礼儀正しく)の定着」 ・毎週1回の委員会活動において、各委員会ごとに目標を決め、実践、振り返りを行う。	「2分前行動、ロッカーの整理整頓。」を全校展開するなどの取組により、生徒アンケートの肯定的回答率を90%以上とする。	90%	中間	90%	A	2分前行動は90%の生徒が実行できている。「あまりできていない」は10%、「できていない」と回答した生徒は0%であった。ロッカーの整理整頓(物を大切に)は90%が意識している。「あまりできていない」は10%、「できていない」は0%であった。	できている部分は今後も継続させていく。時間を守ることが人を大切にするにつながるということや、整理整頓でその人の資質が問われるということなどを繰り返し指導していく。		豊田・廣田	○			重点取組以外にも、静し挨拶の取組など苦勞もされている。評価についても、そのまま正直に出してもらっている。心を育てるには、保護者の協力も大切である。			
○食に関する6領域における各学年の具体目標を設定し、食の大切さの認識を深める。 ・各学年の食育の課題や身につけるべき具体的な目標を1学期中に設定する。 ・全ての項目を達成した生徒に「平成27年度神石高原中学校食事マナー認定書」を送り表彰することで取り組みの意欲につなげる。	各学年の食育の課題や身につけるべき具体的な目標を1学期中に設定し、2・3学期に強調月間を設け、委員会の取り組みや職員による指導などを通して目標に到達する生徒を70%以上にする。(見取りは、職員が行う)	70%	中間	77%	A	10月の食事マナーアンケート集計の結果「食事マナーが定着している」または「意識して身に付けようとしている」と答えた生徒は、77%であった。11月は給食中の食事マナーの強化月間の取組を実施した。	各学年ごとに課題を整理し、目標を設定し給食指導の際に食事マナーを徹底する取組を継続する。	唐川		○		1年女子の体力に課題があり県平均を下回っていたが、体力づくりに取り組み多くの成果が出ているので、来年の結果が楽しみである。				
○食に関する6領域における各学年の具体目標を設定し、食の大切さの認識を深める。 ・各学年の食育の課題や身につけるべき具体的な目標を1学期中に設定する。 ・全ての項目を達成した生徒に「平成27年度神石高原中学校食事マナー認定書」を送り表彰することで取り組みの意欲につなげる。	各学年の食育の課題や身につけるべき具体的な目標を1学期中に設定し、2・3学期に強調月間を設け、委員会の取り組みや職員による指導などを通して目標に到達する生徒を70%以上にする。(見取りは、職員が行う)	70%	中間	77%	A	10月の食事マナーアンケート集計の結果「食事マナーが定着している」または「意識して身に付けようとしている」と答えた生徒は、77%であった。11月は給食中の食事マナーの強化月間の取組を実施した。	各学年ごとに課題を整理し、目標を設定し給食指導の際に食事マナーを徹底する取組を継続する。		横尾	○			食育に取り組むといいながら、給食の時間が15分しかないのは少ないように思う。もっと時間を保障してもいいのではないか。時間的にきついのは、5日制の影響があるのではないかと。給食の試食会等を通して、感謝の気持ちが伝わればよい。			

【自己評価 評価基準】
 A: 100% ≤ (目標達成)
 B: 80% ≤ (ほぼ達成) < 100%
 C: 60% ≤ (もう少し) < 80%
 D: (できていない) < 60%

【学校関係者評価】
 イ: 自己評価は適正である。
 ロ: 自己評価は適正でない。
 ハ: わからない。